

第2回岩出市の環境をまもる審議会

1. 日時：令和7年9月26日（金） 10時00分～11時00分
2. 場所：岩出市総合保健福祉センター 3階 視聴覚室
3. 出席者：会長他委員13名、事務局5名
4. 議題：岩出市有料指定可燃ごみ袋
 - ・アンケート結果について
 - ・特小袋の作成について
5. 会議形式：公開
6. 傍聴者：なし
7. 議事概要：司会者 開会
会長 挨拶
 - (1) 一般廃棄物処理手数料の設定に関する経緯について
 - (2) アンケート結果について
 - (3) 特小袋の作成について

（ 説明終了 ）

主な質疑応答

事務局

◇一般廃棄物処理手数料の設定に関する経緯について

- ・令和5年8月1日より条例改正され、一般廃棄物処理手数料45リットル500円・30リットル330円・20リットル220円となる。
- ・令和5年8月1日の条例改正に伴い、生活応援のために一般廃棄物処理手数料の減額措置を行った。減額内容は、次表のとおり。

	45リットル	30リットル	20リットル
令和5年8月1日 (条例改正)	500円	330円	220円
令和5年8月1日～ 令和7年3月31日	400円	270円	180円
令和7年4月1日～ 令和8年3月31日	450円	300円	200円

令和8年度4月1日より、条例上の金額に戻る。市民にとっては、値上げととらえられる。そのため、より一層のごみの減量化に取り組み、各家庭でのごみの減量化を行うことでごみ袋の費用負担を減らしていきたい。

令和7年7月30日に開催した第1回岩出市環境をまもる審議会において、特小袋の作成の検討を行うに際し、市民の意向を知るため、1世帯～2世帯を対象に無作為に1,000名を抽出し、市民アンケートを行った。回答数は、518名であった。

◇市民アンケート回答結果について

- ・回答者のうち、70代以上が47%、60代以上が24%、50代以上が18%と続き、1人世帯から2人世帯では、高齢化が進んでいるということがわかる。その中で2人世帯以上が回答者の64%を占めている。

- ・使用している主なごみ袋は、20リットルが一番多く、56％であった。続いて、30リットルは31パーセント、45リットルは13％であった。
- ・ごみ袋を出す頻度は、1週間に2回が51％、1週間に1回が39パーセント、その他の10パーセントはハイツなどのダストボックスと推察される。
- ・ごみ袋の運用については、「現行のままの3種類でよい」が65％、「20リットルを廃止して3種類で運用」は6％、「特小袋を含めた4種類で運用」は29パーセントであった。現行のままでよいと答えた人の中には、価格が今現在の減額された金額のままと考えている人も多いということを念頭に置いていただきたい。
- ・特小袋を作るとした場合の大きさについて、15リットルが63％、10リットル23％であり、その他はわずかだが、8リットルや5リットルという意見もある。
- ・価格については、和歌山市や紀の川市と比べていると考えられるが、「高い」という意見が65％となっており、「適正である」というのが34％で1/3となっている。

委 員

- ・現行のままでよいというのが65％と2/3を占めていることに驚いた。しかし、60代から70代が多いということを考えると将来的には出すごみも減ってくることと、プラス1種類増やすという意見も残り1/3を占めているということを考慮すると特小袋が必要ではないかと考える。
- ・委員の多くは、20リットルを使用している。
- ・家族構成も千差万別の中、現行3種＋1種類を作成することで選択肢が増え、小さいごみ袋を選択することで、結果として費用負担を抑えることにつながるのではないか。
- ・普段は1週間に1回のごみ出しを行っているが、夏場は臭いも気になるので、15リットルくらいがあればいいと思う。
- ・特小袋を期間限定（3年～4年）で作って試してみてもどうか。
他市の状況だが、特小袋をスーパーのレジ袋として販売し、そのままごみ袋として使用してもらっているところもある。

質 疑

仮に15リットルまたは10リットルを作成するにあたり、一般廃棄物処理手数料もとい価格の設定はどのように考えているのか。

事務局

現行の条例上では、1リットル1.1円での処理手数料を設定している。よって、15リットルの場合は165円、10リットルの場合は110円ではないかと考えている。

質 疑

物価高騰の中で、その価格は仕方がない。作成するためのコスト、一時保管費用、輸送費等も高騰していることと思う。また、少子高齢化に伴い、特小袋の需要が高くなることは自然の流れだと考える。ただし、特小袋を作成するにあたってのデメリットもある。大まかでもよいが、一般廃棄物処理手数料はどのような収支となっているのか。

事務局

一般廃棄物処理手数料としての歳入は6千万円程。それらを各店舗への取扱手数料は1千万円の歳出となっている。それ以外の歳入はごみ袋製造及びごみ減量化対策等へ使用している。

議 長

クリーンセンターの年間の運営費には、毎年約10億円程度かかると聞いたことがある。一般廃

棄物処理手数料はその５％くらいということですね。

皆さんの意見を聞いていると、特小袋は作った方がいいという意見が多い。次回の審議で、作成の有無とその他の項目について審議する方向でよろしいでしょうか。

委 員

特小袋を作成するかどうかは、この会議中に決議できるのではないかな。

その他委員

同意

議 長

では、提案が出ましたので、本日の会議において「特小袋を作成するかどうか」の決議を取りたいと思います。

特小袋の作成に関し、賛成の方は挙手をお願いします。

委 員

賛成１０名 反対１名

議 長

賛成多数で、特小袋を作成することが決議されました。しかし、反対の方のご意見も伺いたい。

委 員

作る自体は良いが、２０リットルを廃止して特小袋へ置き換えるのはやめていただきたい。

議 長

作る自体は反対ではないということですね。では、リットルで４５・３０・２０・１５または１０の議論と、４５・３０・１５または１０という議論を重ねていく必要があります。次回の審議で、リットルについては審議したいと考えます。他に質問等はありませんか。

委 員

- ・基本的なことですがなぜ大は４５リットルなのか？他では、６０リットルなども売られている。
- ・ごみ袋の色や材質はどうなるのか。

議 長

- ・ペールのごみ箱の仕様の多くは４５リットルが多く、それに合わせている。
- ・色や材質は、平成２４年から有料化に伴い、１０年が経過したことで市民の皆さんに緑色が浸透しているので変更は考えていない。

事務局

次回の審議で、委員の皆さんにご審議いただきたいこととして、多言語表示についてどのような言語を記載するのがいいのかをご審議いただきたい。基本的には、英語・中国語・韓国語などが他市で多い。

委 員

外国人は何人くらいおり、国籍がどこの方が多いのかがわかる資料を出してほしい。

議 長

では、本会議にて特小袋の作成については、作成するということで答申は決定した。しかし、すぐに実施できるわけではないと思う。種類が増えることによって保管場所の確保も必要となる。よって、特小袋の運用実現までのスケジュールを事務局案として作成していただきたい。次回は、外国籍の方の人口比率を調べ、記載する言語の審議と運用する種類の決定と、特小袋のリットル数について審議し、実現までのスケジュールをオペレーションしていただきたい。

事務局
了承

【まとめ】

- ・特小袋は作成することについて答申の方向性は決定
- ・袋の大きさ、運用の種類、標記等は次回審議会で審議する

【次回審議内容】

- ・特小袋のサイズの審議、15リットルまたは10リットル
- ・大・中・小・特小または大・中・特小の運用の審議
- ・外国語表記の種類についての審議

【次回の審議に必要な資料】

- ・特小袋運用実現までのスケジュール
- ・外国語の表記にあたり、外国籍の住民の人口比率資料

【次回開催予定日】

- ・10月末頃を予定